

君津市
外国人市民アンケート調査
結果報告書

令和 4 年 3 月

君 津 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	仕事について	5
3	ことばについて	7
4	日常生活について	12
5	子育てについて	15
6	防災について	19
7	地域参加について	23
8	新型コロナウイルスの影響について	26
9	市役所への要望	28
III	自由意見	30
IV	調査のまとめ及び施策提言	34
1	仕事について	34
2	ことばについて	34
3	日常生活について	35
4	子育てについて	36
5	防災について	36
6	地域参加について	37
7	新型コロナウイルスの影響について	38
8	市役所への要望	38

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、君津市にお住いの外国人の方々の日常生活の不安や不便について把握するとともに、皆さまの考えや要望を多文化共生のまちづくりに反映させることを目的として実施したものです。

2 調査対象

君津市在住の 18 歳以上の外国人の市民の中から無作為抽出

3 調査期間

令和 4 年 2 月 15 日から令和 4 年 3 月 2 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配 布 数	有効回答数	有効回答率
900 通	255 通	28.3%

6 調査結果の表示方法

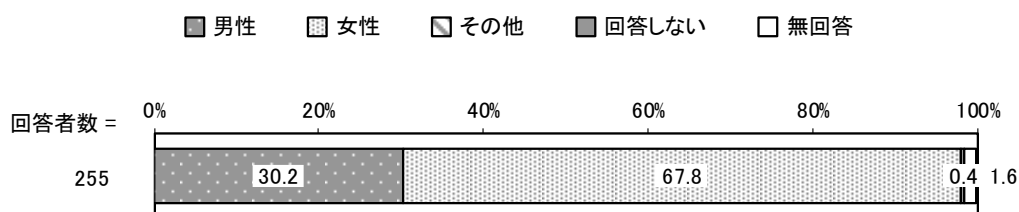
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

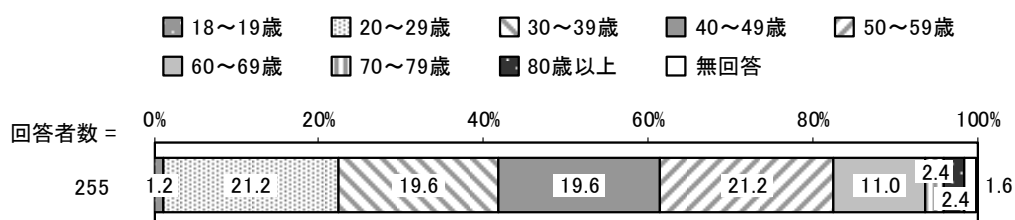
Q 1 あなたの性別について教えてください。(○はひとつだけ)

「男性」の割合が 30.2%、「女性」の割合が 67.8%となっています。



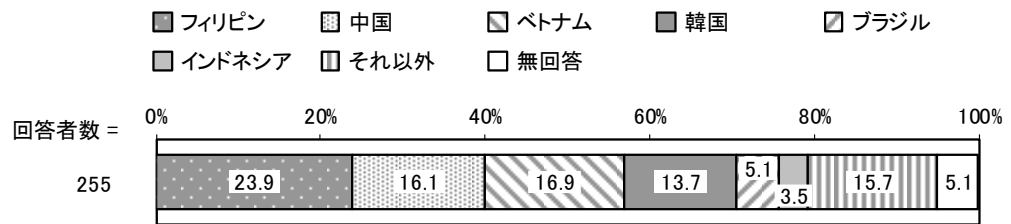
Q 2 あなたの年齢を教えてください。(○はひとつだけ)

「20～29 歳」、「50～59 歳」の割合が 21.2%と最も高く、次いで「30～39 歳」、「40～49 歳」の割合が 19.6%となっています。



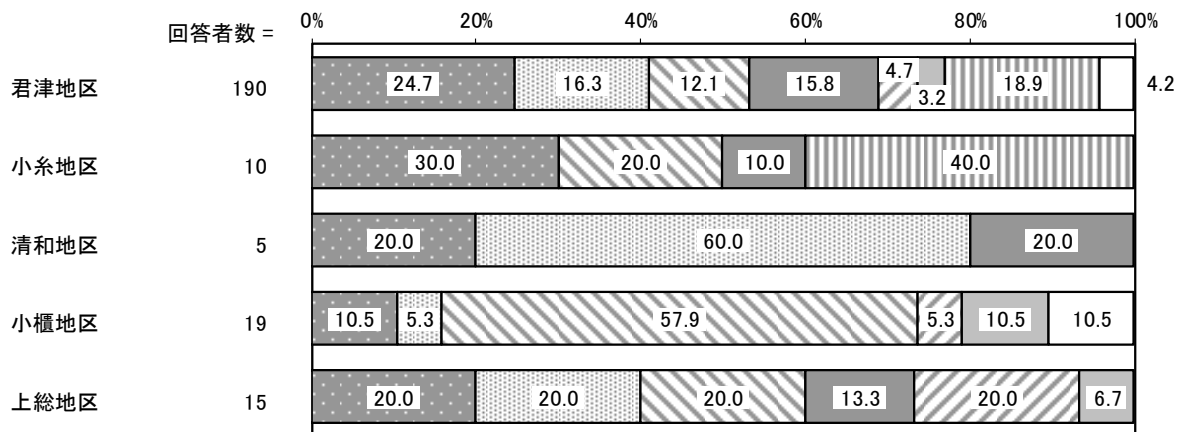
Q 3 あなたの国籍を教えてください。(〇はひとつだけ)

「フィリピン」の割合が 23.9%と最も高く、次いで「ベトナム」の割合が 16.9%、「中国」の割合が 16.1%となっています。



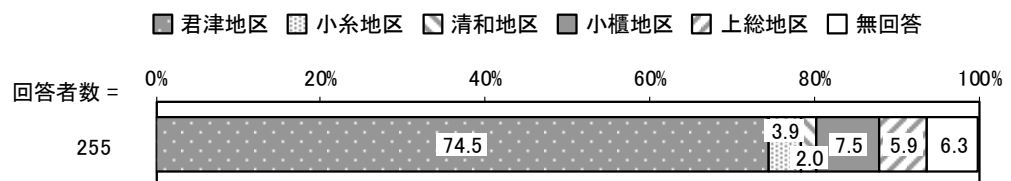
【地区別】

地区別でみると、他に比べ、小櫃地区で「ベトナム」の割合が高く、約 6 割となっています。また、上総地区で「ブラジル」の割合が高く、2 割となっています。



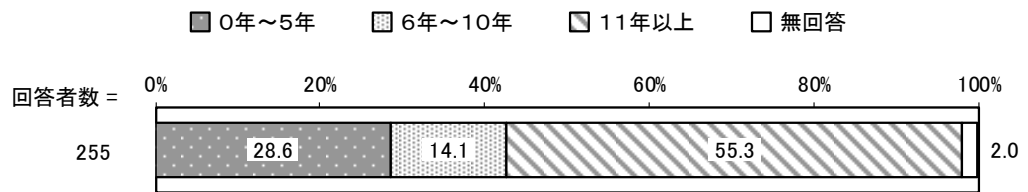
Q 4 君津市のどの地域に住んでいますか。

「君津地区」の割合が 74.5%と最も高くなっています。



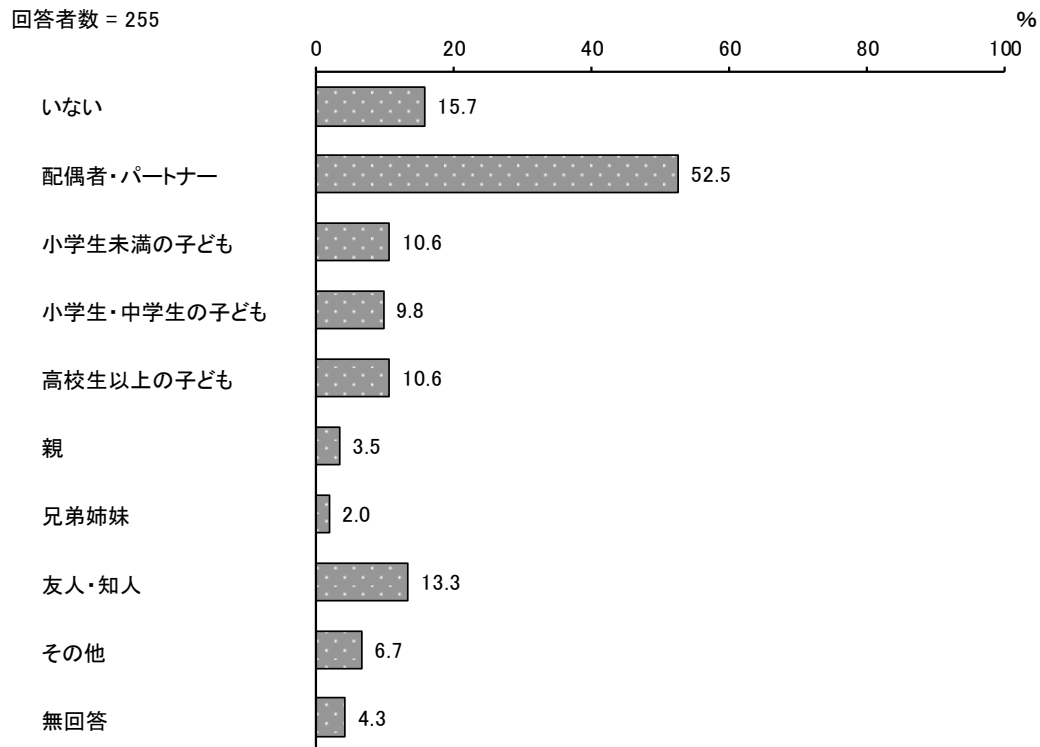
Q 5 あなたは、日本に何年住んでいますか。(○はひとつだけ)

「11年以上」の割合が55.3%と最も高く、次いで「0年～5年」の割合が28.6%、「6年～10年」の割合が14.1%となっています。



Q 6 一緒に住んでいる人を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

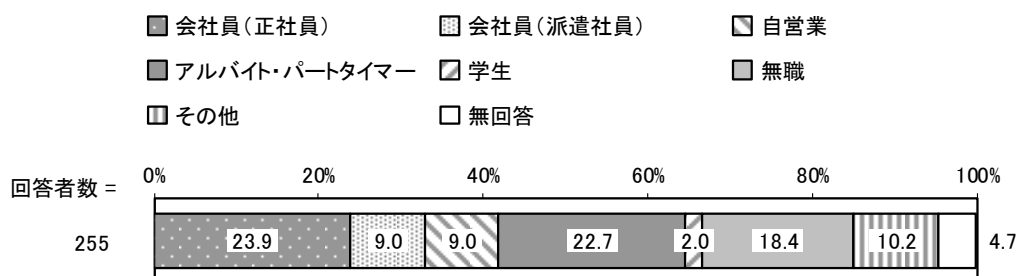
「配偶者・パートナー」の割合が52.5%と最も高く、次いで「いない」の割合が15.7%、「友人・知人」の割合が13.3%となっています。



2 仕事について

Q7 あなたの職業は何ですか。(〇はひとつだけ)

「会社員（正社員）」の割合が 23.9%と最も高く、次いで「アルバイト・パートタイマー」の割合が 22.7%、「無職」の割合が 18.4%となっています。

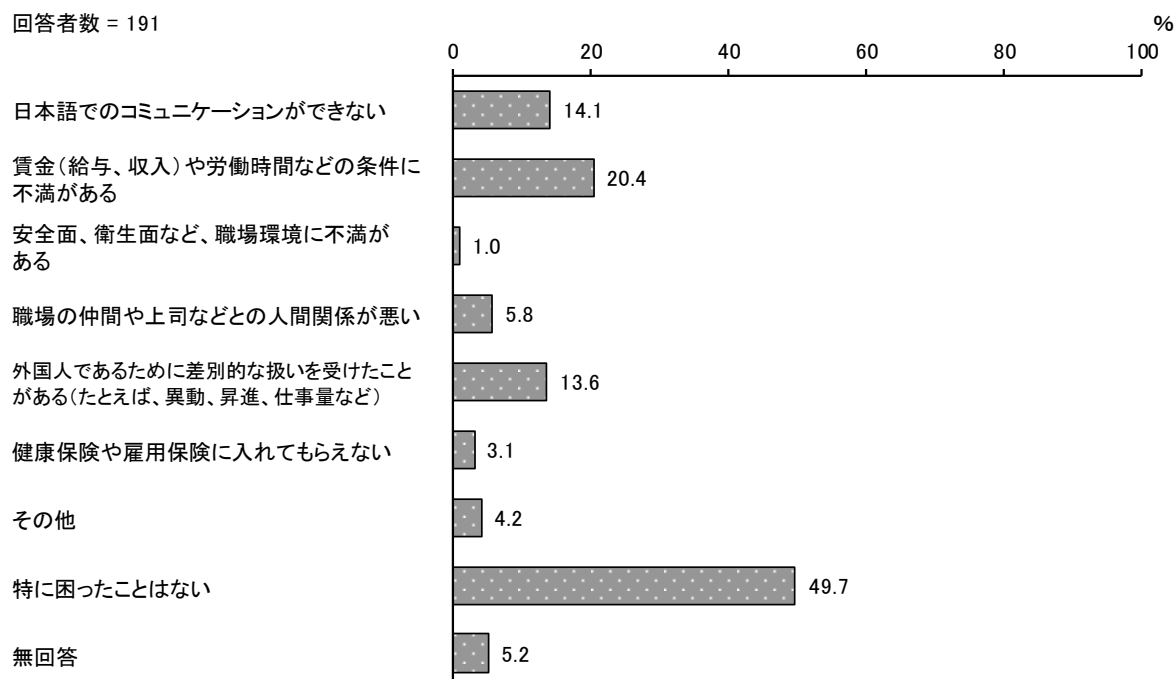


『お仕事をしてる人』にお聞きします。

Q8 あなたは、現在の仕事をしていて、困ったことはありますか。 (あてはまるものすべてに〇)

「特に困ったことはない」の割合が 49.7%と最も高く、次いで「賃金（給与、収入）や労働時間などの条件に不満がある」の割合が 20.4%、「日本語でのコミュニケーションができない」の割合が 14.1%となっています。

回答者数 = 191



【職業別】

職業別でみると、他に比べ、会社員（派遣社員）で「賃金（給与、収入）や労働時間などの条件に不満がある」の割合が高く、約3割となっています。また、自営業で「日本語でのコミュニケーションができない」の割合が高く、約2割となっています。

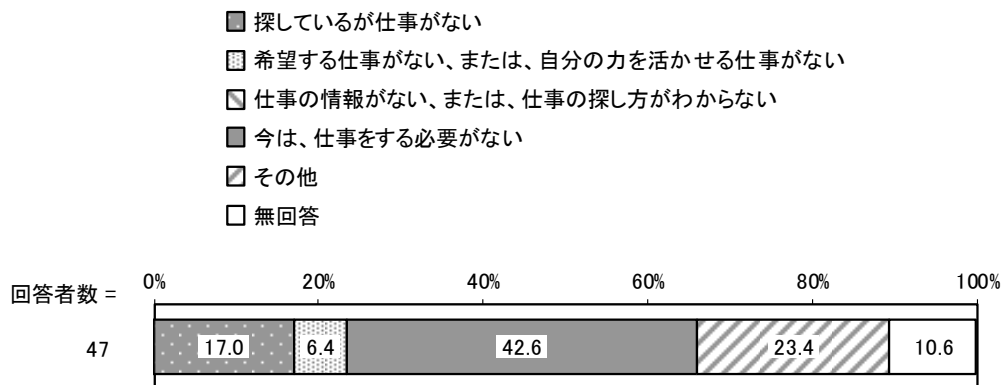
単位：％

区分	回答者数（件）	日本語でのコミュニケーションができない	賃金（給与、収入）や労働時間などの条件に不満がある	安全面、衛生面など、職場環境に不満がある	職場の仲間や上司などとの人間関係が悪い	外国人であるために差別的な扱いを受けたことがある（たとえば、異動、昇進、仕事量など）	健康保険や雇用保険に入れてもらえない	その他	特に困ったことはない	無回答
会社員（正社員）	61	13.1	18.0	—	9.8	11.5	3.3	1.6	55.7	3.3
会社員（派遣社員）	23	8.7	30.4	—	—	17.4	—	8.7	52.2	—
自営業	23	21.7	8.7	—	—	8.7	4.3	—	52.2	8.7
アルバイト・パートタイマー	58	15.5	20.7	1.7	6.9	10.3	3.4	8.6	41.4	8.6
学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無職	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	26	11.5	26.9	3.8	3.8	26.9	3.8	—	50.0	3.8

『お仕事をしていない人（学生除く）』にお聞きします。

Q9 仕事をしていない理由はなんですか。（○はひとつだけ）

「今は、仕事をする必要がない」の割合が42.6％と最も高く、次いで「探しているが仕事がない」の割合が17.0％となっています。

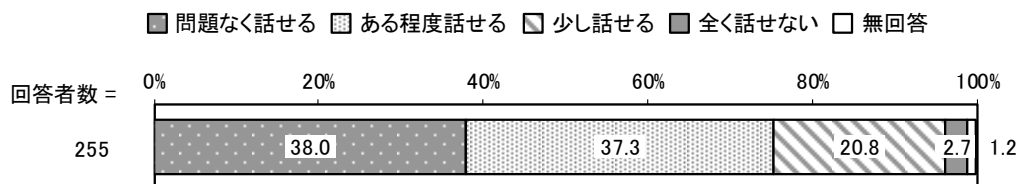


3 ことばについて

Q10 あなたは、日本語がどれくらいできますか。
それぞれあてはまるものに○をつけてください。

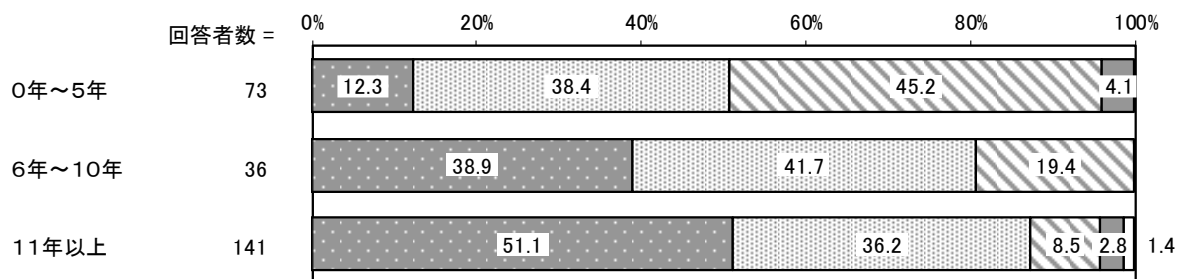
A 話す

「問題なく話せる」の割合が38.0%と最も高く、次いで「ある程度話せる」の割合が37.3%、「少し話せる」の割合が20.8%となっています。



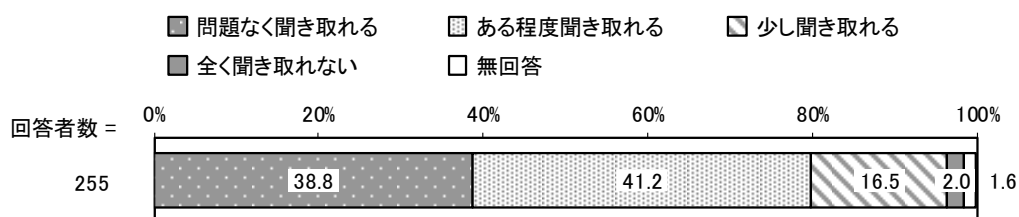
【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が長くなるにつれ「問題なく話せる」の割合が高くなる傾向がみられ、11年以上で約5割となっています。



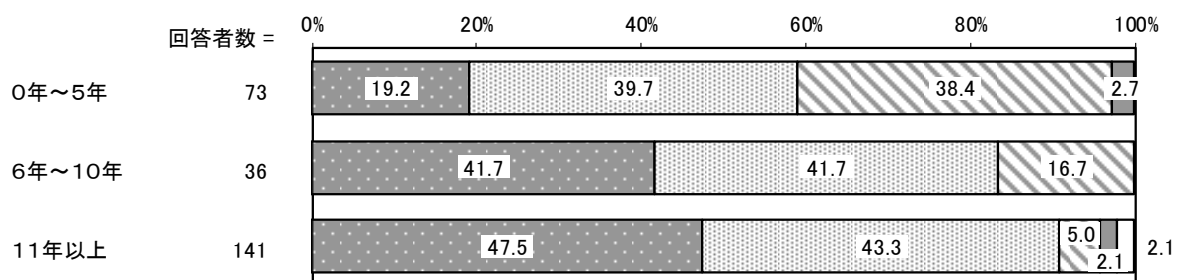
B 聞く

「ある程度聞き取れる」の割合が41.2%と最も高く、次いで「問題なく聞き取れる」の割合が38.8%、「少し聞き取れる」の割合が16.5%となっています。



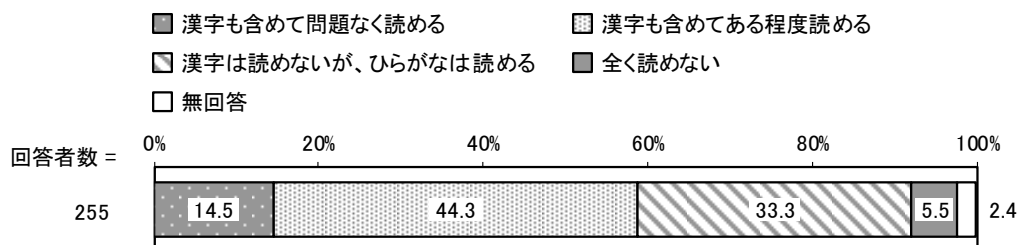
【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が長くなるにつれ「問題なく聞き取れる」の割合が高くなる傾向がみられ、11年以上で約5割となっています。



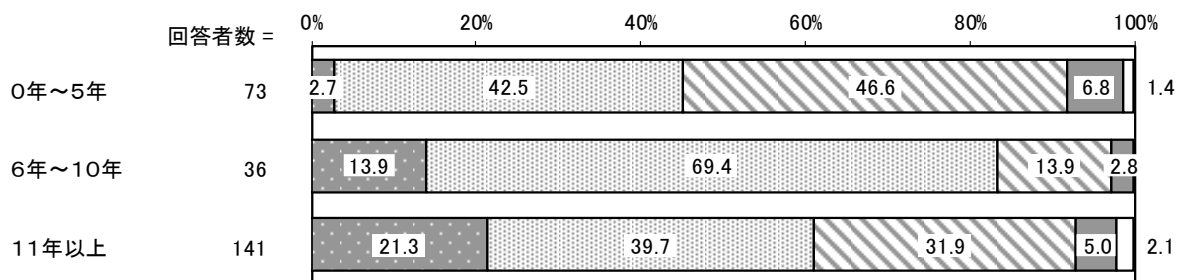
C 読む

「漢字も含めてある程度読める」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「漢字は読めないが、ひらがなは読める」の割合が 33.3%、「漢字も含めて問題なく読める」の割合が 14.5%となっています。



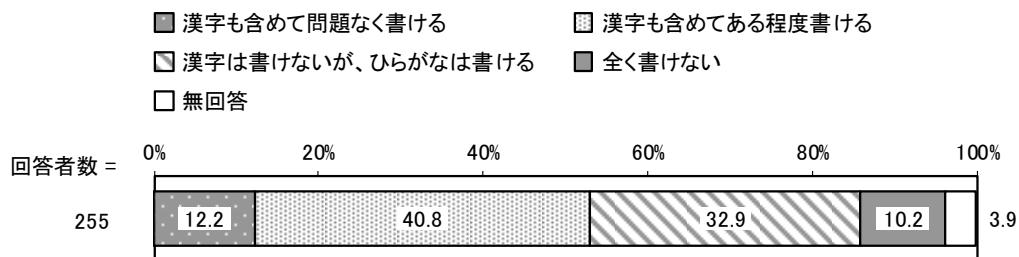
【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が長くなるにつれ「漢字も含めて問題なく読める」の割合が高くなる傾向がみられ、11年以上で約2割となっています。また、他に比べ、6年～10年で「漢字も含めてある程度読める」の割合が高く、約7割となっています。



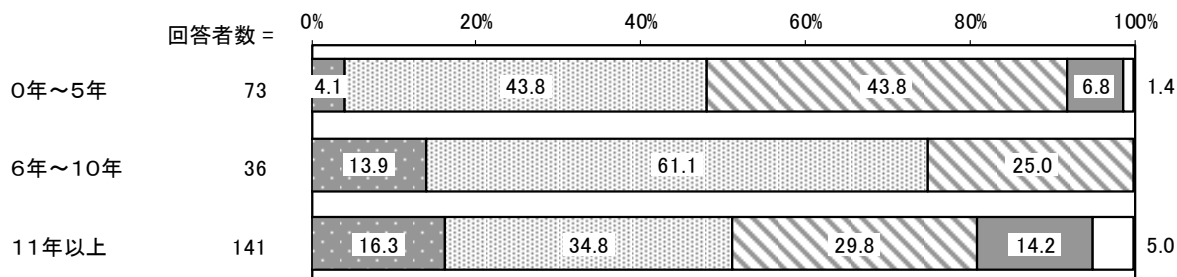
D 書く

「漢字も含めてある程度書ける」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「漢字は書けないが、ひらがなは書ける」の割合が 32.9%、「漢字も含めて問題なく書ける」の割合が 12.2%となっています。



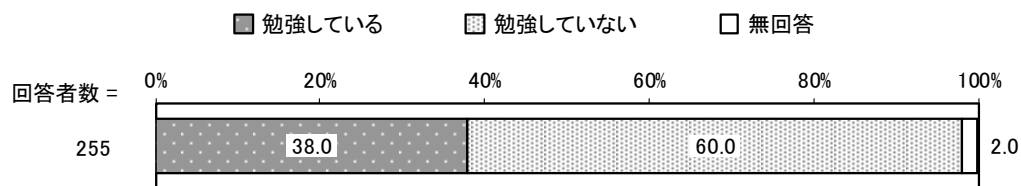
【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が長くなるにつれ「漢字も含めて問題なく書ける」の割合が高くなる傾向がみられ、11年以上で1割半ばとなっています。また、他に比べ、6年～10年で「漢字も含めてある程度書ける」の割合が高く、約6割となっています。



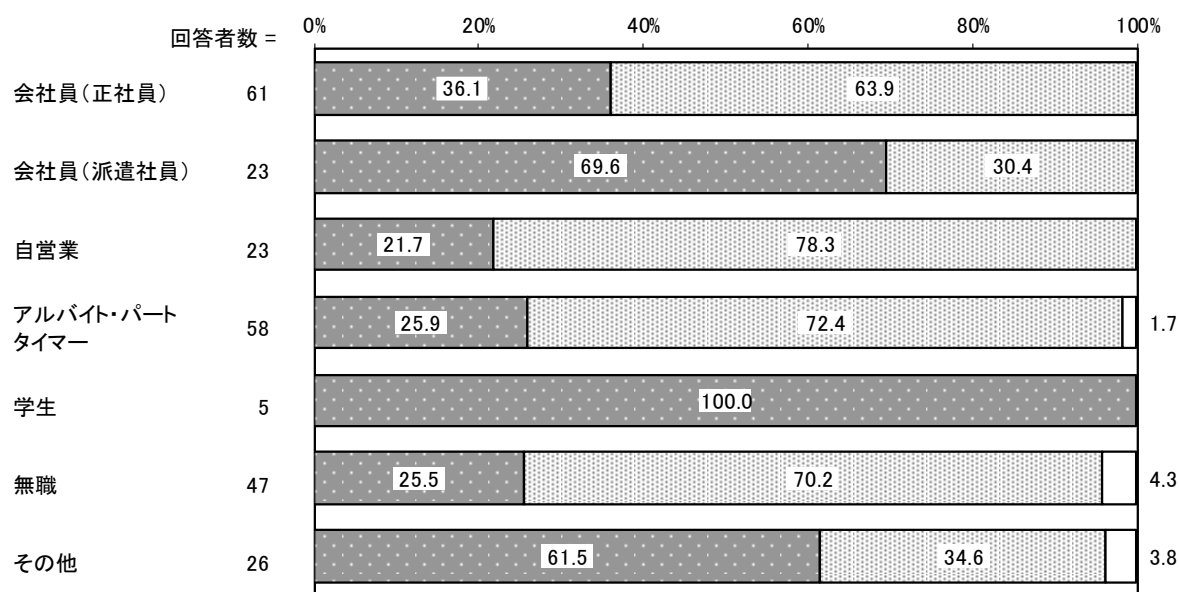
Q 1 1 あなたは、今、日本語を勉強していますか。(○はひとつだけ)

「勉強している」の割合が 38.0%、「勉強していない」の割合が 60.0%となっています。



【職業別】

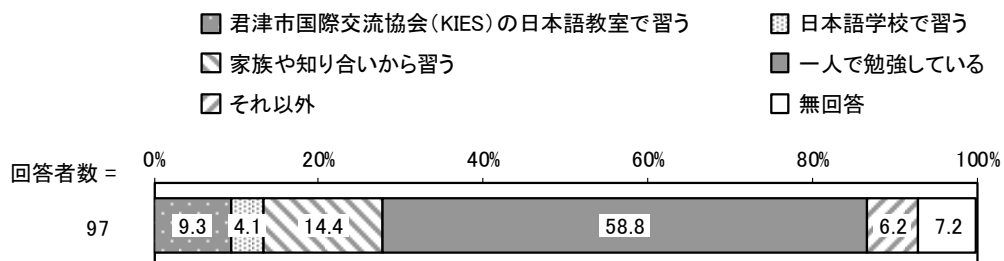
職業別でみると、他に比べ、会社員（派遣社員）で「勉強している」の割合が高く、約 7 割となっています。また、自営業で「勉強していない」の割合が高く、約 8 割となっています。



Q 1 1 で「勉強している」と答えた人に聞きます。

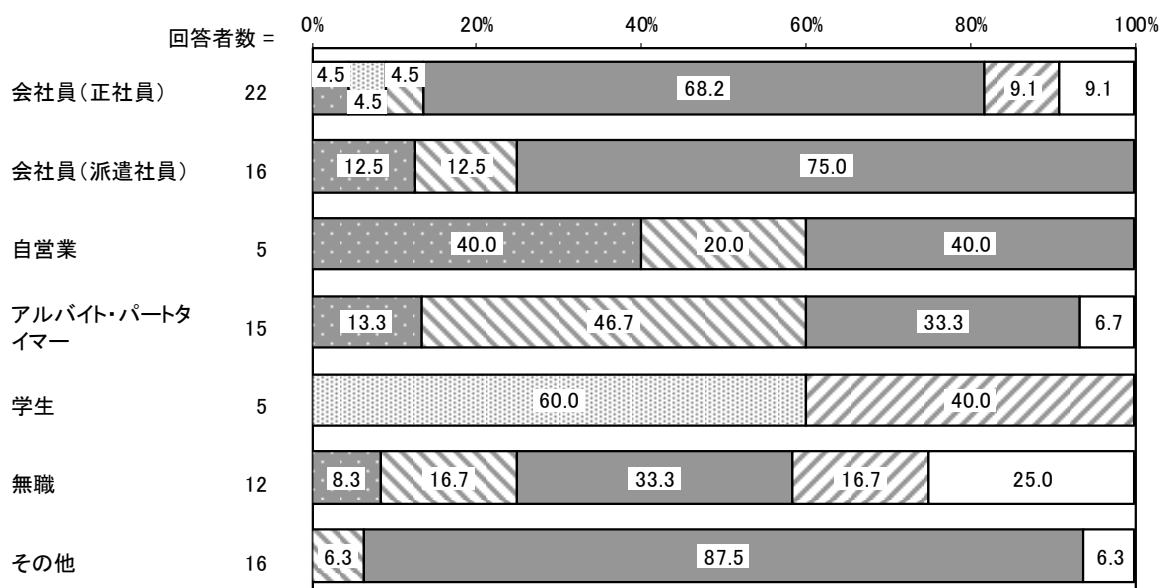
Q 1 1-1. どのように勉強していますか。(○はひとつだけ)

「一人で勉強している」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「家族や知り合いから習う」の割合が 14.4%となっています。



【職業別】

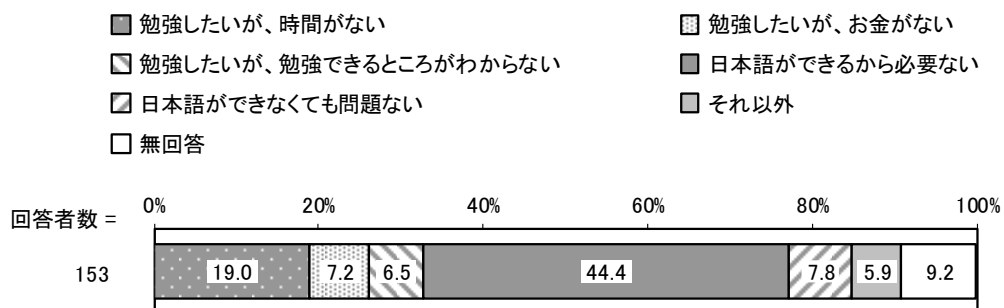
職業別でみると、他に比べ、会社員（派遣社員）で「一人で勉強している」の割合が高く、7割半ばとなっています。また、アルバイト・パートタイマーで「家族や知り合いから習う」の割合が高く、4割半ばとなっています。



Q 1 1 で「勉強していない」と答えた人に聞きます。

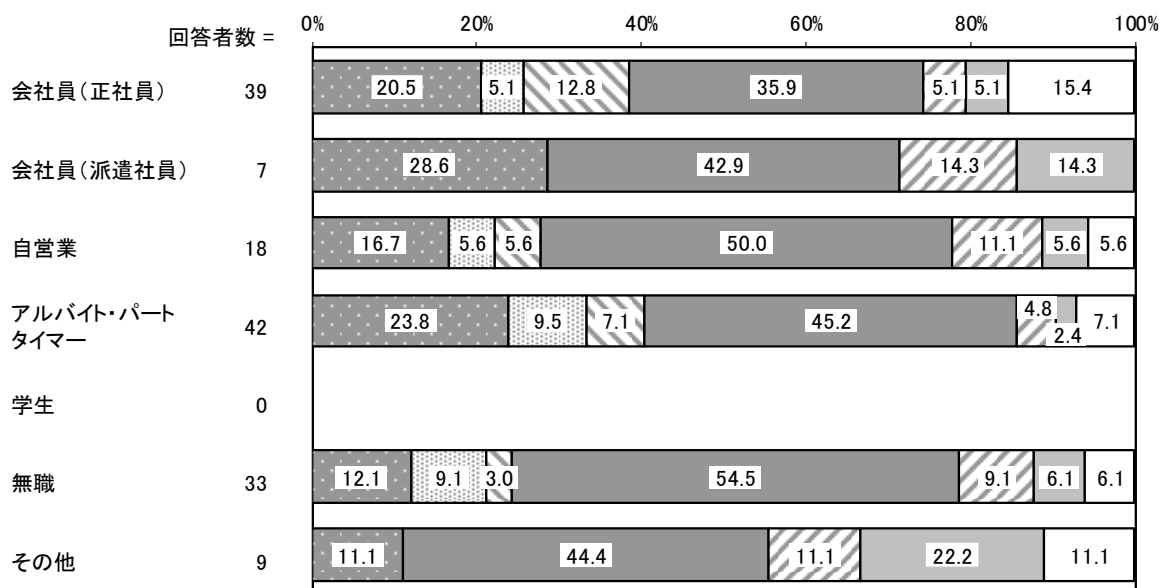
Q 1 1-2. 勉強していない理由は何ですか。(○はひとつだけ)

「日本語ができるから必要ない」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「勉強したいが、時間がない」の割合が 19.0%となっています。



【職業別】

職業別でみると、他に比べ、無職で「日本語ができるから必要ない」の割合が高く、5割半ばとなっています。

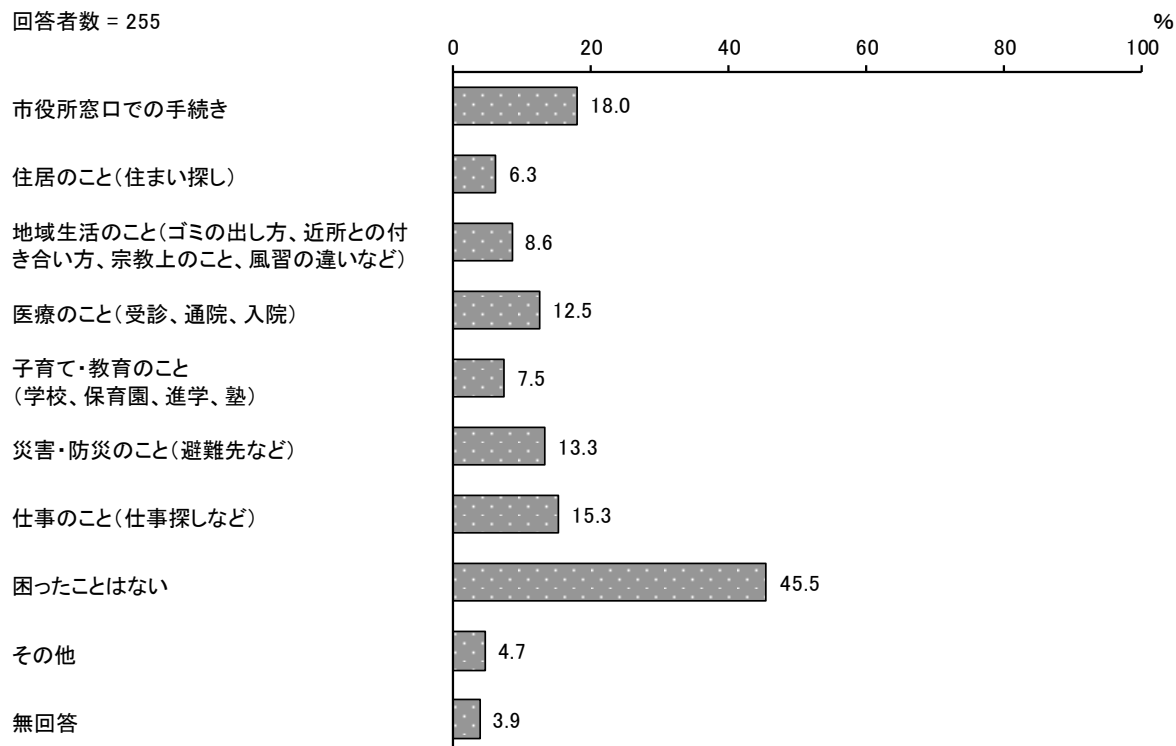


4 日常生活について

Q12 あなたが日常生活で困ること、または、これまでに困ったことはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

「困ったことはない」の割合が45.5%と最も高く、次いで「市役所窓口での手続き」の割合が18.0%、「仕事のこと（仕事探しなど）」の割合が15.3%となっています。

回答者数 = 255



【在日年数別】

在日年数別でみると、他に比べ、6年～10年で「子育て・教育のこと（学校、保育園、進学、塾）」の割合が高く、約2割となっています。

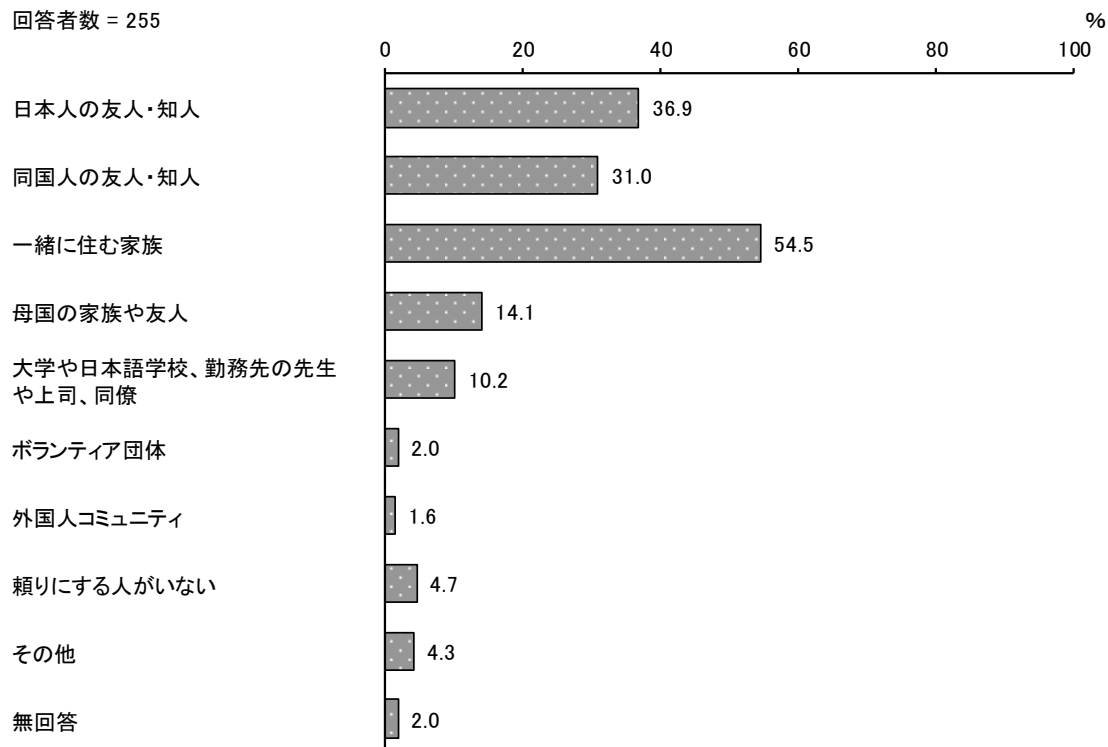
単位：%

区分	回答者数 (件)	市役所窓口での手続き	住居のこと (住まい探し)	地域生活のこと (ゴミの出し方、近所との付き合い方、宗教上のこと、風習の違いなど)	医療のこと (受診、通院、入院)	子育て・教育のこと (学校、保育園、進学、塾)	災害・防災のこと (避難先など)	仕事のこと (仕事探しなど)	困ったことはない	その他	無回答
0年～5年	73	16.4	11.0	8.2	11.0	4.1	15.1	17.8	45.2	1.4	4.1
6年～10年	36	16.7	11.1	5.6	5.6	22.2	5.6	8.3	44.4	8.3	2.8
11年以上	141	18.4	2.8	9.2	15.6	5.7	14.9	15.6	46.8	5.7	3.5

Q 1 3 あなたが日常生活の中で、主に頼りにするのは誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「一緒に住む家族」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「日本人の友人・知人」の割合が 36.9%、「同国人の友人・知人」の割合が 31.0%となっています。

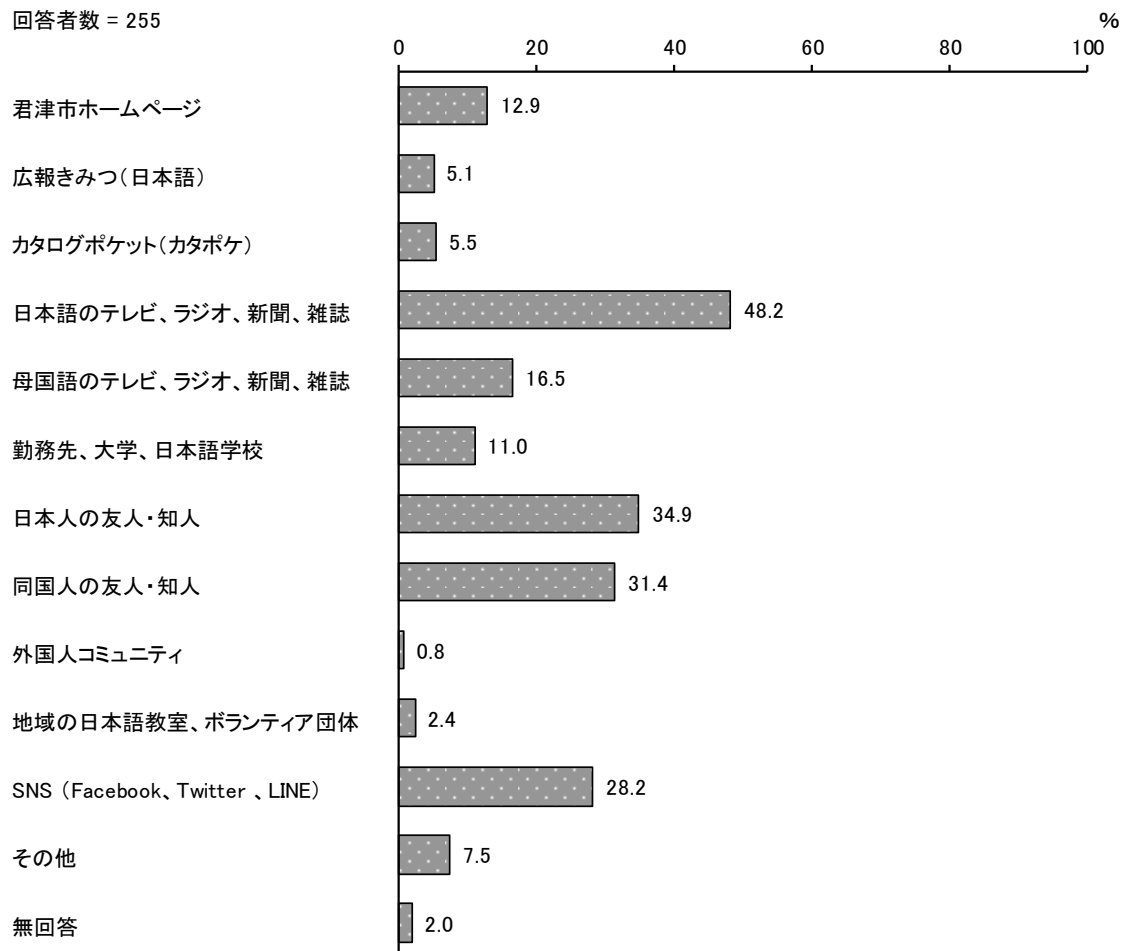
回答者数 = 255



Q 1 4 あなたは生活に必要な情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

「日本語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「日本人の友人・知人」の割合が 34.9%、「同国人の友人・知人」の割合が 31.4%となっています。

回答者数 = 255



【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が長くなるにつれ「日本語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌」の割合が、在日年数が短くなるにつれ「SNS (Facebook、Twitter、LINE)」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、6年～10年で「君津市ホームページ」の割合が、11年以上で「日本人の友人・知人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	君津市ホームページ	広報きみつ(日本語)	カタログポケット(カタポケ)	日本語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌	母国語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌	勤務先、大学、日本語学校	日本人の友人・知人	同国人の友人・知人	外国人コミュニティ	地域の日本語教室、ボランティア団体	SNS (Facebook、Twitter、LINE)	その他	無回答
0年～5年	73	13.7	1.4	5.5	13.7	11.0	11.0	24.7	31.5	1.4	5.5	46.6	6.8	2.7
6年～10年	36	27.8	11.1	19.4	52.8	16.7	5.6	19.4	33.3	2.8	2.8	36.1	13.9	2.8
11年以上	141	9.2	5.7	2.1	64.5	19.9	11.3	43.3	30.5	—	0.7	17.7	6.4	1.4

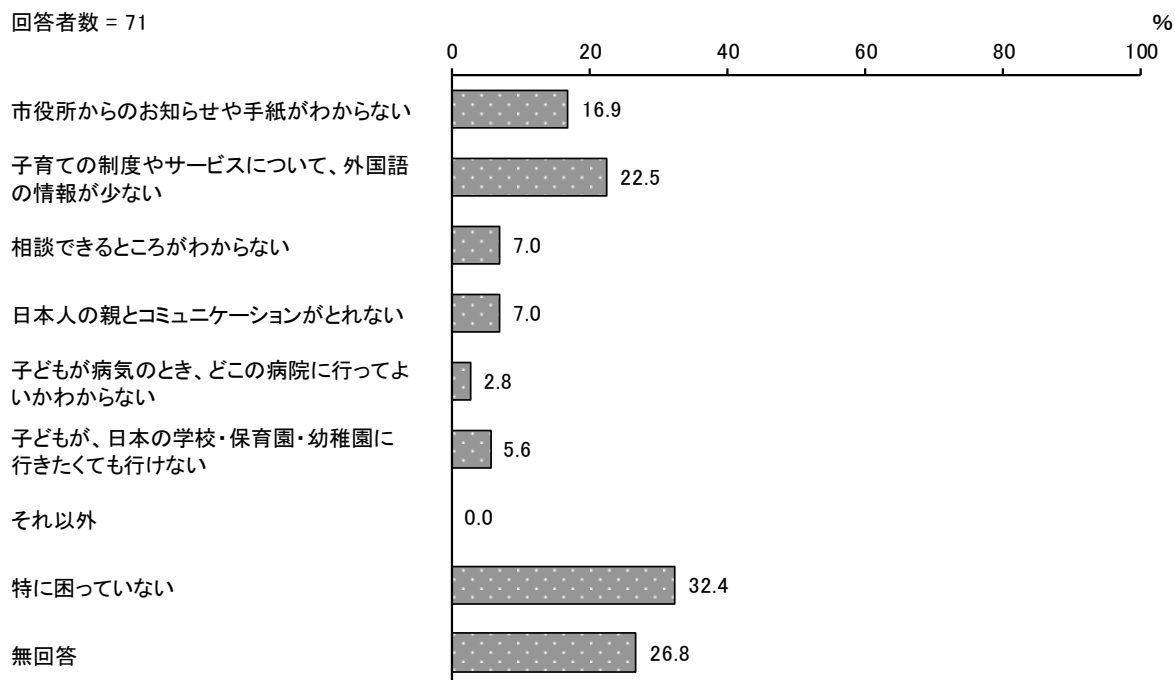
5 子育てについて

「0歳から18歳までの子ども」がいる人に聞きます。

Q15 あなたは、子育てについて、困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に困っていない」の割合が32.4%と最も高く、次いで「子育ての制度やサービスについて、外国語の情報が少ない」の割合が22.5%、「市役所からのお知らせや手紙がわからない」の割合が16.9%となっています。

回答者数 = 71



【在日年数別】

在日年数別でみると、他に比べ、6年～10年で「子育ての制度やサービスについて、外国語の情報が少ない」の割合が高く、3割半ばとなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	市役所からのお知らせや手紙がわからない	子育ての制度やサービスについて、外国語の情報が少ない	相談できるところがわからない	日本人の親とコミュニケーションがとれない	子どもが病気のとき、どここの病院に行ってもいまいわからない	子どもが、日本の学校・保育園・幼稚園に行きたくても行けない	それ以外	特に困っていない	無回答
0年～5年	2	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	—	—	—	—
6年～10年	19	15.8	36.8	5.3	10.5	5.3	10.5	—	31.6	10.5
11年以上	50	16.0	16.0	6.0	2.0	—	4.0	—	34.0	34.0

【同居家族別】

同居家族別でみると、他に比べ、小学生未満の子どもがいる人で「市役所からのお知らせや手紙がわからない」「子どもが、日本の学校・保育園・幼稚園に行きたくても行けない」の割合が高くなっています。

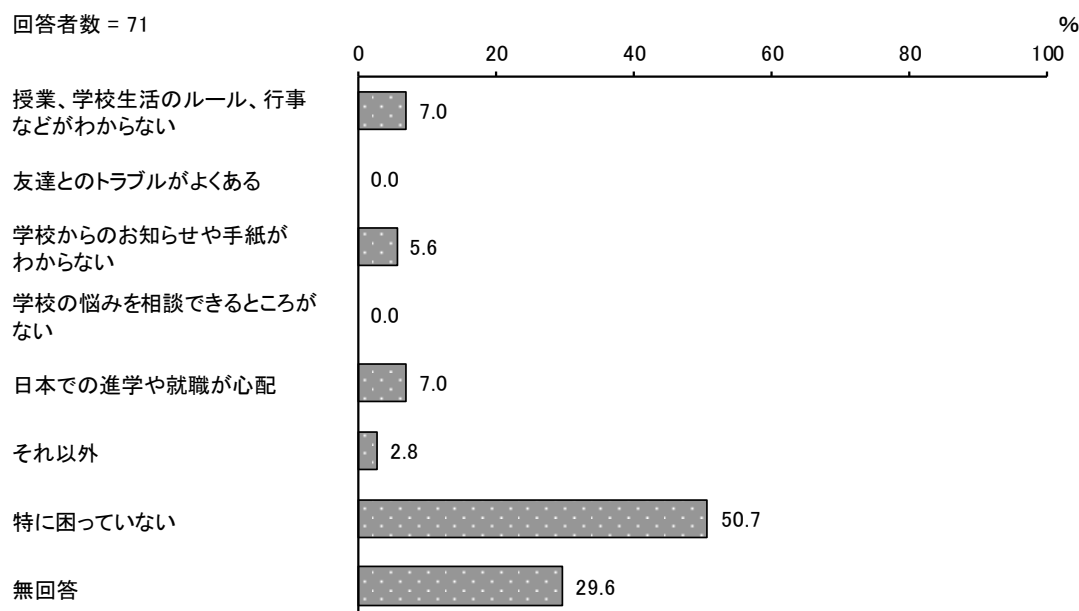
単位：％

区分	回答者数(件)	市役所からのお知らせや手紙がわからない	子育ての制度やサービスについて、外国語の情報が少ない	相談できるところがわからない	日本人の親とコミュニケーションがとれない	子どもが病気のとき、この病院に行つてよいかわからない	子どもが、日本の学校・保育園・幼稚園に行きたくても行けない	それ以外	特に困っていない	無回答
いない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
配偶者・パートナー	53	11.3	26.4	5.7	7.5	1.9	5.7	—	39.6	24.5
小学生未満の子ども	27	25.9	29.6	7.4	11.1	7.4	14.8	—	29.6	7.4
小学生・中学生の子ども	25	16.0	28.0	8.0	8.0	4.0	—	—	56.0	8.0
高校生以上の子ども	27	14.8	11.1	7.4	3.7	—	—	—	18.5	55.6
親	3	33.3	66.7	33.3	—	—	—	—	—	33.3
兄弟姉妹	2	50.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—
友人・知人	1	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
その他	2	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0

「0歳から18歳までの子ども」がいる人に聞きます。

Q16 学校で、あなたや、あなたの子どもが困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に困っていない」の割合が50.7%と最も高くなっています。



【在日年数別】

在日年数別でみると、他に比べ、6年～10年で「日本での進学や就職が心配」、「特に困っていない」の割合がともに高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	授業、学校生活のルール、行事などがわからない	友達とのトラブルがよくある	学校からのお知らせや手紙がわからない	学校の悩みを相談できるところがない	日本での進学や就職が心配	それ以外	特に困っていない	無回答
0年～5年	2	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—
6年～10年	19	10.5	—	—	—	21.1	10.5	57.9	5.3
11年以上	50	6.0	—	6.0	—	2.0	—	48.0	40.0

【同居家族別】

同居家族別でみると、他に比べ、小学生未満の子どもがいる人で「授業、学校生活のルール、行事などがわからない」の割合が高く、約1割となっています。また、小学生・中学生の子どもがいる人で「特に困っていない」の割合が高く、7割半ばとなっています。

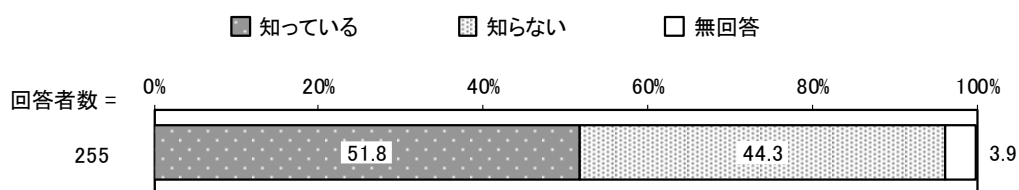
単位：％

区分	回答者数(件)	授業、学校生活のルール、行事などがわからない	友達とのトラブルがよくある	学校からのお知らせや手紙がわからない	学校の悩みを相談できるところがない	日本での進学や就職が心配	それ以外	特に困っていない	無回答
いない	—	—	—	—	—	—	—	—	—
配偶者・パートナー	53	7.5	—	7.5	—	3.8	3.8	54.7	26.4
小学生未満の子ども	27	11.1	—	11.1	—	7.4	7.4	59.3	11.1
小学生・中学生の子ども	25	4.0	—	8.0	—	8.0	—	76.0	4.0
高校生以上の子ども	27	3.7	—	—	—	3.7	—	29.6	63.0
親	3	—	—	—	—	—	—	66.7	33.3
兄弟姉妹	2	—	—	50.0	—	50.0	—	—	—
友人・知人	1	—	—	—	—	100.0	—	—	—
その他	2	—	—	—	—	—	—	—	100.0

6 防災について

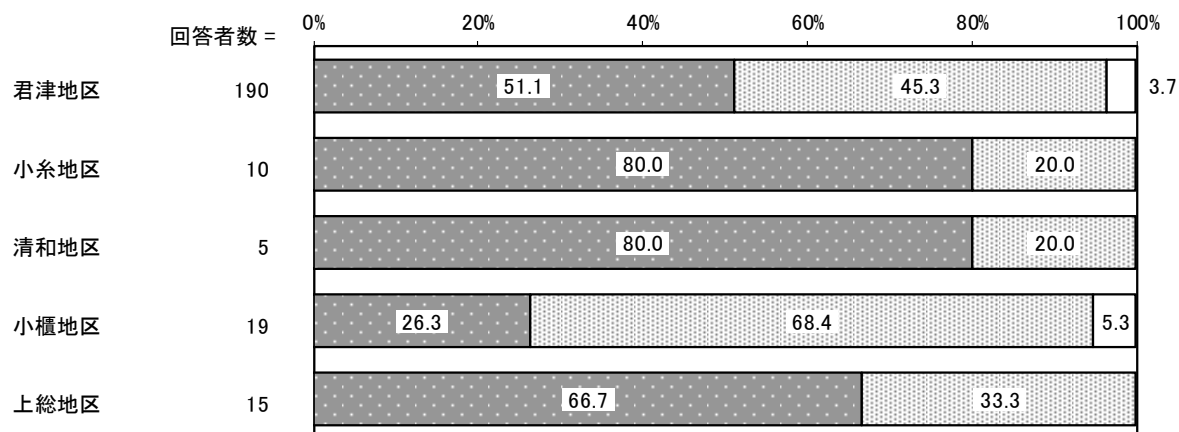
Q 17 あなたは、指定された地域の避難場所を知っていますか。(〇はひとつだけ)

「知っている」の割合が 51.8%、「知らない」の割合が 44.3%となっています。



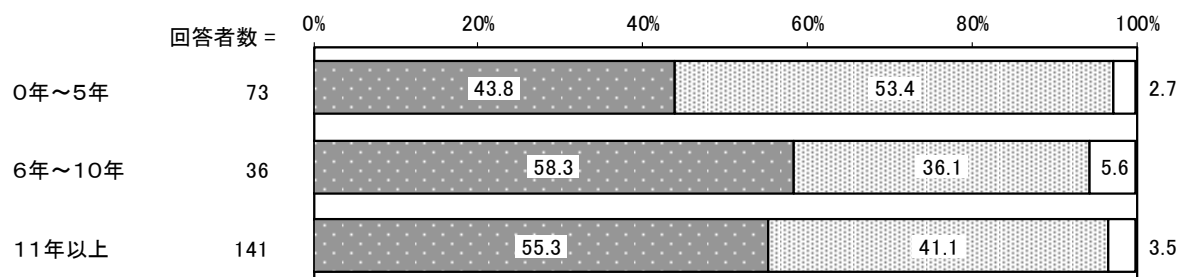
【地区別】

地区別でみると、他に比べ、小糸地区で「知っている」の割合が高く、8割となっています。一方、小櫃地区で「知らない」の割合が高く、約7割となっています。



【在日年数別】

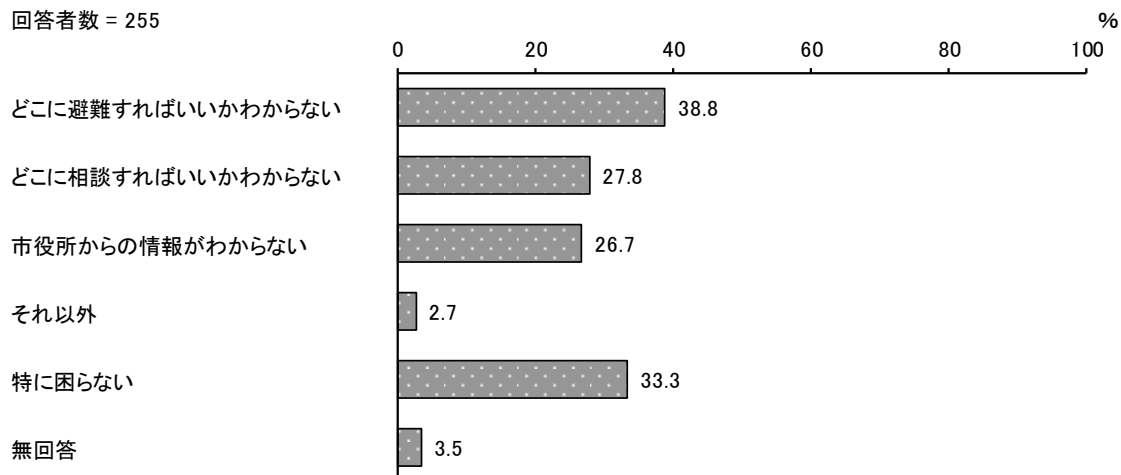
在日年数別でみると、他に比べ、0年～5年で「知らない」の割合が高く、約5割となっています。



**Q 18 あなたは、災害が起きたとき、どんなことに困りますか。
(あてはまるものすべてに○)**

「どこに避難すればいいかわからない」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「特に困らない」の割合が 33.3%、「どこに相談すればいいかわからない」の割合が 27.8%となっています。

回答者数 = 255



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、小櫃地区で「どこに避難すればいいかわからない」の割合が高く、約 7 割となっています。また、小糸地区で「どこに相談すればいいかわからない」の割合が高く、4 割となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	どこに避難すればいいかわからない	どこに相談すればいいかわからない	市役所からの情報がわからない	それ以外	特に困らない	無回答
君津地区	190	38.4	28.9	25.8	3.2	37.4	2.6
小糸地区	10	20.0	40.0	20.0	—	20.0	10.0
清和地区	5	—	20.0	—	—	60.0	20.0
小櫃地区	19	68.4	31.6	47.4	—	5.3	—
上総地区	15	33.3	26.7	26.7	—	33.3	—

【在日年数別】

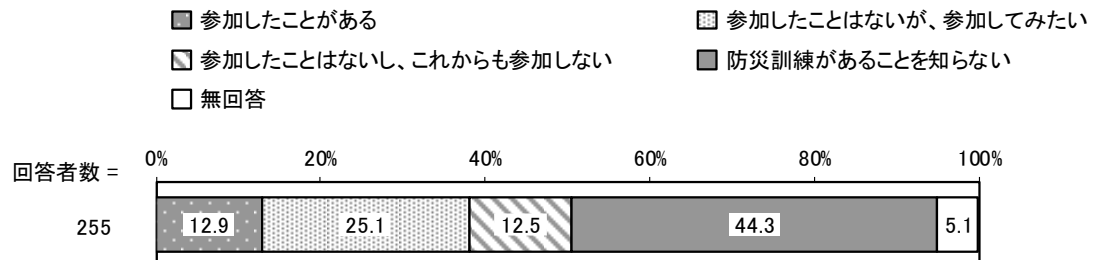
在日年数別でみると、他に比べ、0年～5年で「どこに避難すればいいかわからない」「市役所からの情報がわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	どこに避難すればいいかわからない	どこに相談すればいいかわからない	市役所からの情報がわからない	それ以外	特に困らない	無回答
0年～5年	73	54.8	37.0	42.5	1.4	17.8	1.4
6年～10年	36	33.3	30.6	13.9	2.8	33.3	5.6
11年以上	141	31.9	22.7	22.0	3.5	41.8	3.5

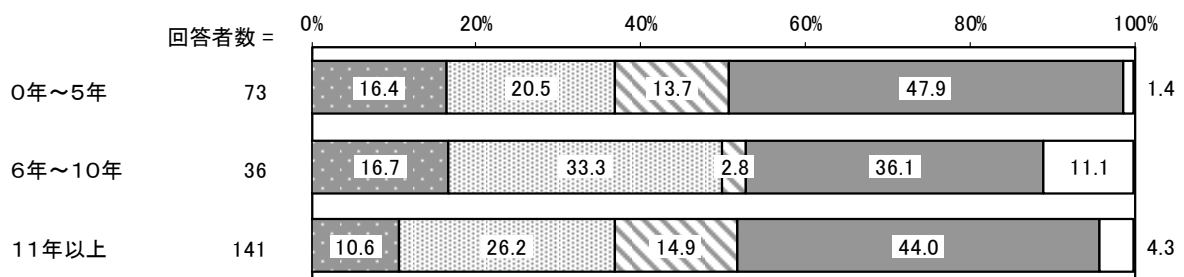
Q19 あなたは、地域でおこなっている防災訓練に参加したことがありますか。 (〇はひとつだけ)

「防災訓練があることを知らない」の割合が44.3%と最も高く、次いで「参加したことはないが、参加してみたい」の割合が25.1%、「参加したことがある」の割合が12.9%となっています。



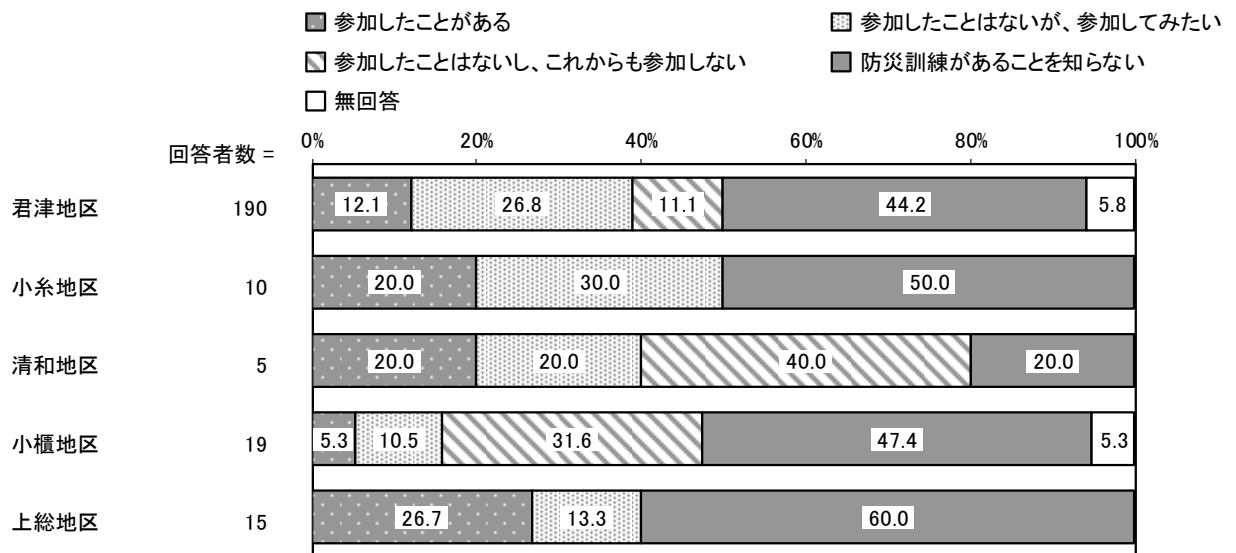
【在日年数別】

在日年数別でみると、他に比べ、0年～5年で「防災訓練があることを知らない」の割合が高く、約5割となっています。また、6年～10年で「参加したことはないが、参加してみたい」の割合が高く、約3割となっています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、小糸地区で「参加したことはないが、参加してみたい」の割合が高く、3割となっています。また、上総地区で「防災訓練があることを知らない」の割合が高く、6割となっています。

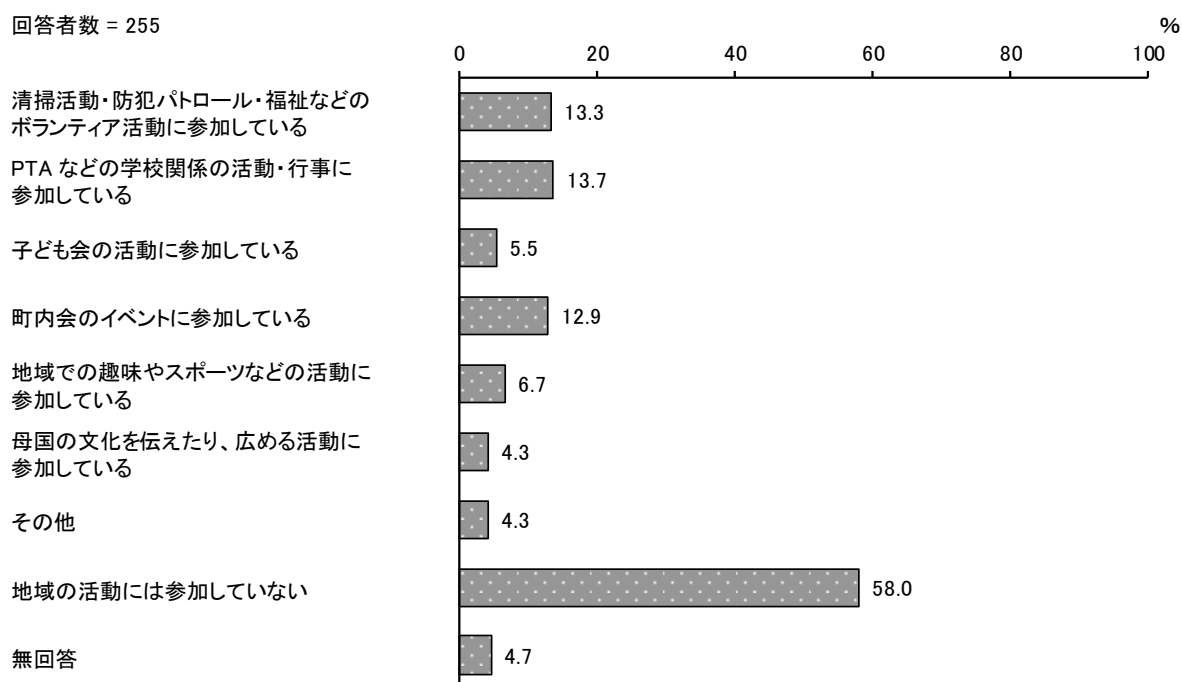


7 地域参加について

Q20 あなたは、日本人と一緒に地域の活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「地域の活動には参加していない」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「PTA などの学校関係の活動・行事に参加している」の割合が 13.7%、「清掃活動・防犯パトロール・福祉などのボランティア活動に参加している」の割合が 13.3%となっています。

回答者数 = 255



【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が短くなるにつれ「地域の活動には参加していない」の割合が高くなる傾向がみられ、0年～5年で約8割となっています。また、11年以上で「町内会のイベントに参加している」の割合が高く、約2割となっています。

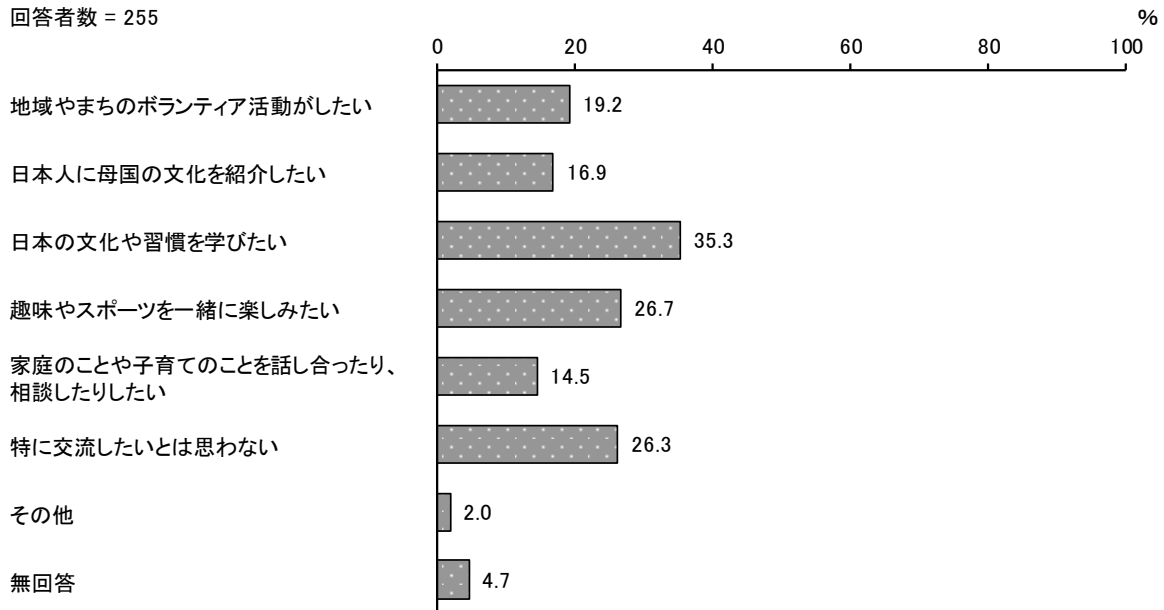
単位：%

区分	回答者数(件)	清掃活動・防犯パトロール・福祉などのボランティア活動に参加している	PTAなどの学校関係の活動・行事に参加している	子ども会の活動に参加している	町内会のイベントに参加している	地域での趣味やスポーツなどの活動に参加している	母国の文化を伝えたり、広める活動に参加している	その他	地域の活動には参加していない	無回答
0年～5年	73	6.8	1.4	1.4	—	2.7	2.7	4.1	80.8	1.4
6年～10年	36	13.9	19.4	8.3	13.9	5.6	11.1	2.8	58.3	2.8
11年以上	141	16.3	19.1	7.1	19.9	8.5	3.5	5.0	46.8	6.4

**Q 2 1 あなたは、今後、地域の日本人とどのような交流をしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)**

「日本の文化や習慣を学びたい」の割合が35.3%と最も高く、次いで「趣味やスポーツを一緒に楽しみたい」の割合が26.7%、「特に交流したいとは思わない」の割合が26.3%となっています。

回答者数 = 255



【在日年数別】

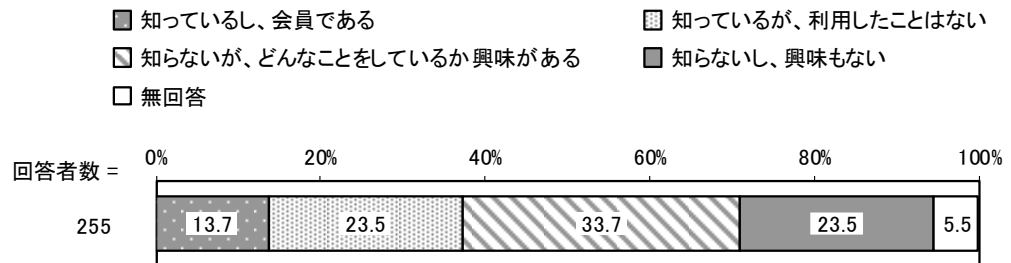
在日年数別でみると、他に比べ、0年～5年で「日本人に母国の文化を紹介したい」の割合が、6年～10年で「家庭のことや子育てのことを話し合ったり、相談したりしたい」の割合が高く、約3割となっています。また、11年以上で「特に交流したいとは思わない」の割合が高く、3割半ばとなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	地域やまちのボランティア活動がしたい	日本人に母国の文化を紹介したい	日本の文化や習慣を学びたい	趣味やスポーツを一緒に楽しみたい	家庭のことや子育てのことを話し合ったり、相談したりしたい	特に交流したいとは思わない	その他	無回答
0年～5年	73	28.8	27.4	53.4	31.5	8.2	16.4	—	1.4
6年～10年	36	27.8	13.9	55.6	27.8	30.6	8.3	—	—
11年以上	141	12.1	12.8	21.3	23.4	13.5	36.2	3.5	7.8

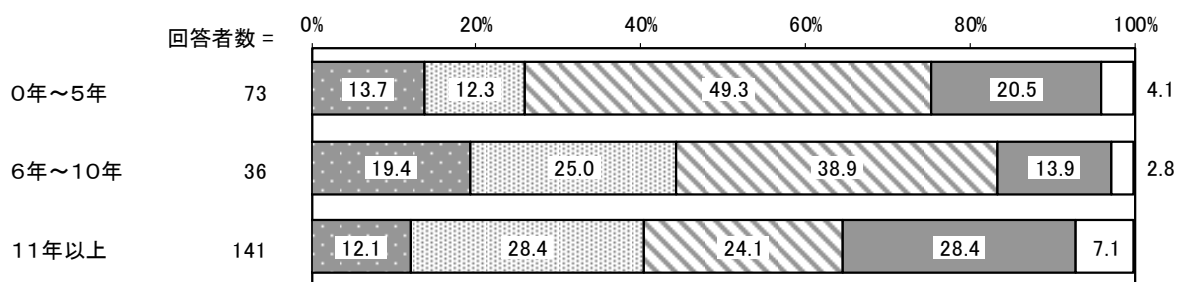
Q 2 2 君津市国際交流協会（K I E S）では、日本語を教えたり、相談業務をおこなっていますが、知っていますか。

「知らないが、どんなことをしているか興味がある」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」、「知らないし、興味もない」の割合が 23.5%となっています。



【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が短くなるにつれ「知らないが、どんなことをしているか興味がある」の割合が高くなる傾向がみられ、0年～5年で約5割となっています。また、他に比べ、11年以上で「知っているが、利用したことはない」「知らないし、興味もない」の割合が高く、約3割となっています。

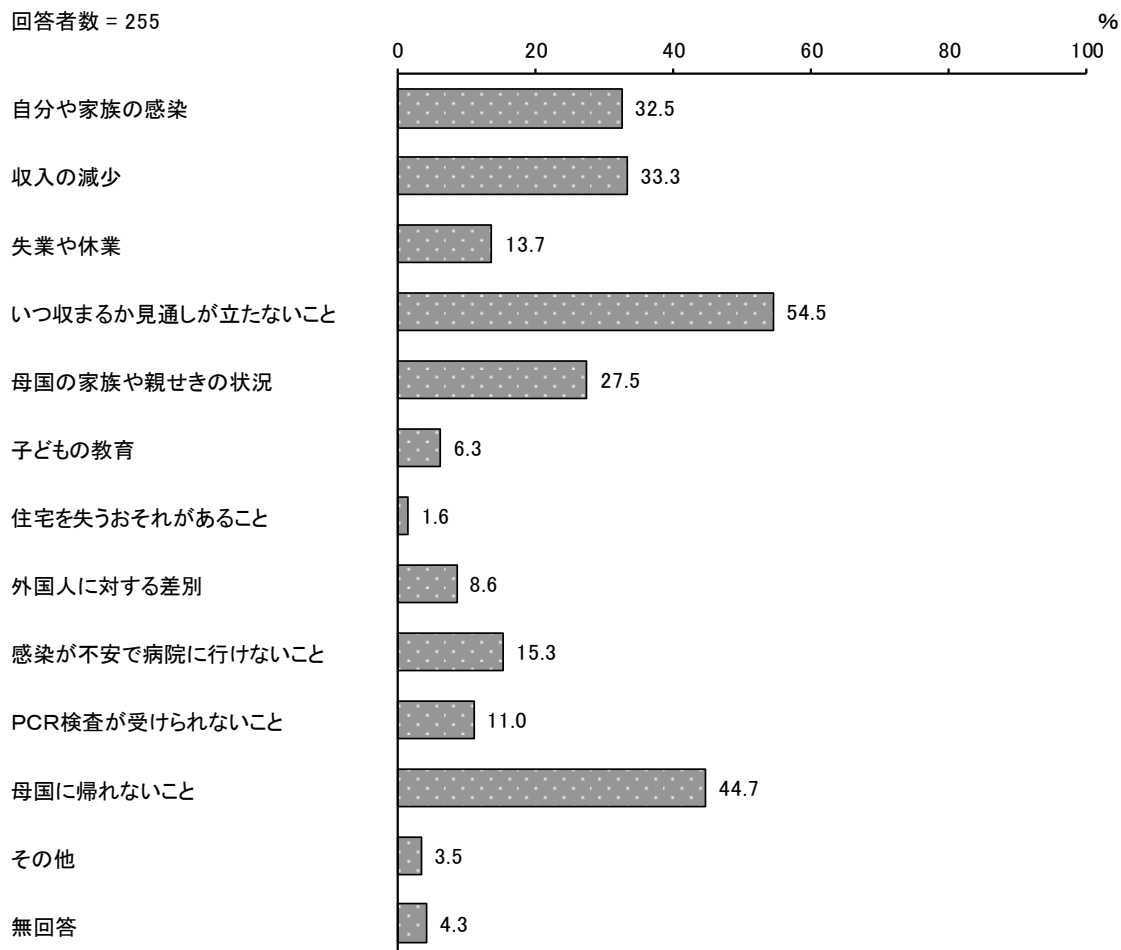


8 新型コロナウイルスの影響について

Q 2 3 新型コロナウイルスの影響により、困っていることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

「いつ収まるか見通しが立たないこと」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「母国に帰れないこと」の割合が 44.7%、「収入の減少」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 255



【職業別】

職業別でみると、他に比べ、無職で「いつ収まるか見通しが立たないこと」の割合が高く、6割半ばとなっています。また、自営業で「自分や家族の感染」「収入の減少」「PCR検査が受けられないこと」「母国に帰れないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分や家族の感染	収入の減少	失業や休業	いつ収まるか見通しが 立たないこと	母国の家族や親せきの 状況	子どもの教育
会社員（正社員）	61	24.6	26.2	11.5	55.7	27.9	6.6
会社員（派遣社員）	23	13.0	52.2	21.7	39.1	21.7	—
自営業	23	52.2	56.5	17.4	60.9	30.4	—
アルバイト・パートタイマー	58	32.8	31.0	24.1	51.7	32.8	8.6
学生	5	20.0	60.0	—	60.0	—	—
無職	47	46.8	21.3	8.5	66.0	25.5	8.5
その他	26	26.9	34.6	3.8	57.7	30.8	7.7

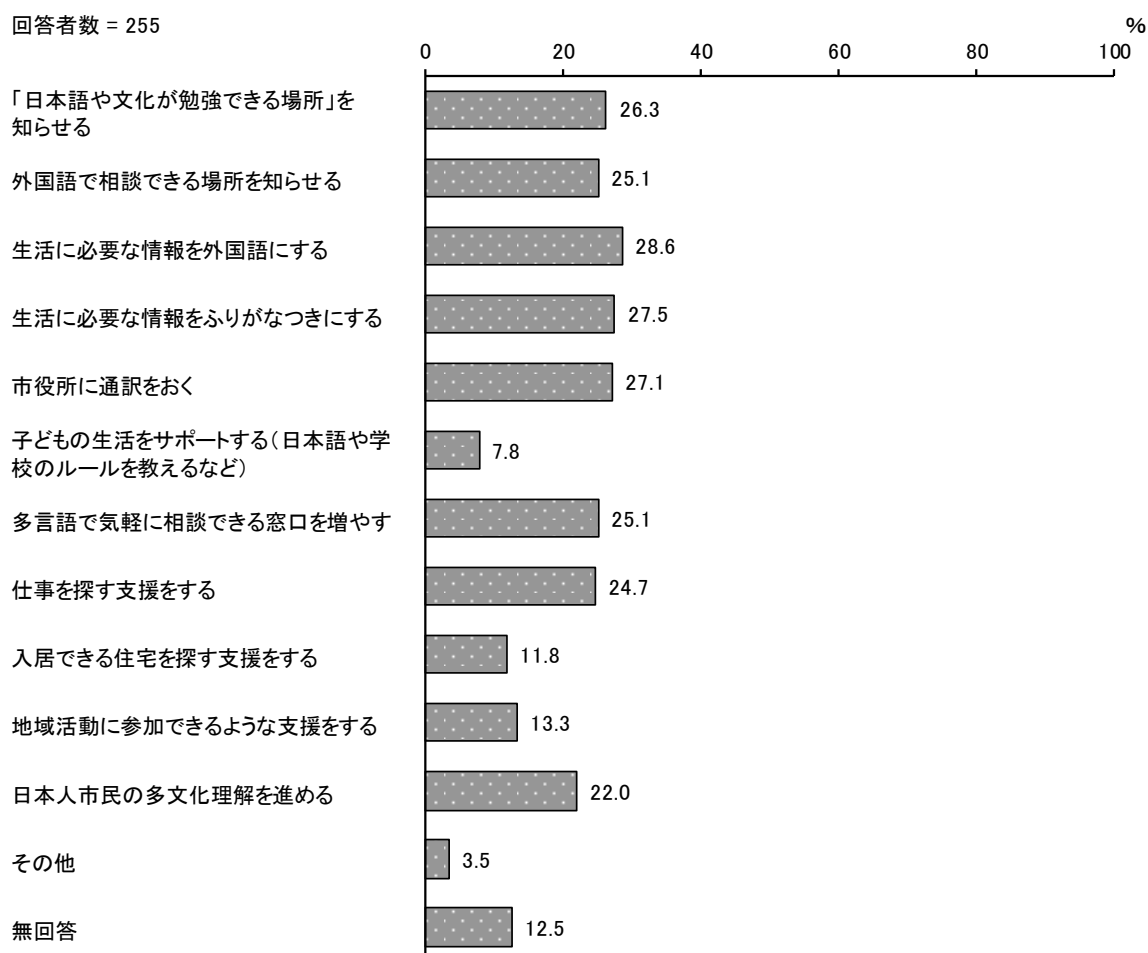
区分	住宅を失うおそれがあること	外国人に対する差別	感染が不安で病院に行けないこと	PCR検査が受けられないこと	母国に帰れないこと	その他	無回答
会社員（正社員）	—	16.4	13.1	8.2	42.6	—	6.6
会社員（派遣社員）	4.3	—	13.0	8.7	43.5	4.3	—
自営業	—	17.4	13.0	17.4	56.5	4.3	—
アルバイト・パートタイマー	1.7	6.9	17.2	13.8	46.6	3.4	8.6
学生	—	20.0	20.0	—	40.0	—	—
無職	—	2.1	17.0	4.3	48.9	4.3	2.1
その他	7.7	7.7	23.1	11.5	23.1	11.5	3.8

9 市役所への要望

Q24 あなたは、市役所にどんなサービスをしてほしいですか。
(あてはまるものすべてに○)

「生活に必要な情報を外国語にする」の割合が28.6%と最も高く、次いで「生活に必要な情報をふりがなつきにする」の割合が27.5%、「市役所に通訳をおく」の割合が27.1%となっています。

回答者数 = 255



【国籍別】

国籍別でみると、他に比べ、ブラジルで「外国語で相談できる場所を知らせる」「生活に必要な情報をふりがなつきにする」の割合が高くなっています。また、中国で「日本人市民の多文化理解を進める」の割合が高く、3割半ばとなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「日本語や文化が勉強できる場所」を知らせる	外国語で相談できる場所を知らせる	生活に必要な情報を外国語にする	生活に必要な情報をふりがなつきにする	市役所に通訳をおく	子どもの生活をサポートする（日本語や学校のルールを教えるなど）	多言語で気軽に相談できる窓口を増やす	仕事を探す支援をする	入居できる住宅を探す支援をする	地域活動に参加できるような支援をする	日本人市民の多文化理解を進める	その他	無回答
フィリピン	61	18.0	23.0	36.1	41.0	29.5	9.8	19.7	32.8	18.0	6.6	14.8	3.3	9.8
中国	41	24.4	24.4	19.5	12.2	24.4	7.3	39.0	12.2	4.9	19.5	34.1	2.4	14.6
ベトナム	43	34.9	9.3	16.3	25.6	27.9	—	11.6	34.9	7.0	11.6	18.6	2.3	2.3
韓国	35	20.0	17.1	14.3	8.6	14.3	5.7	2.9	11.4	5.7	8.6	14.3	11.4	40.0
ブラジル	13	30.8	46.2	46.2	53.8	30.8	23.1	38.5	30.8	15.4	15.4	23.1	—	7.7
インドネシア	9	66.7	33.3	44.4	33.3	22.2	33.3	33.3	33.3	44.4	11.1	55.6	—	—
それ以外	40	27.5	40.0	32.5	32.5	27.5	5.0	47.5	22.5	10.0	22.5	25.0	2.5	7.5

【在日年数別】

在日年数別でみると、在日年数が短くなるにつれ「日本語や文化が勉強できる場所」を知らせる」「多言語で気軽に相談できる窓口を増やす」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、6年～10年で「子どもの生活をサポートする（日本語や学校のルールを教えるなど）」「仕事を探す支援をする」「日本人市民の多文化理解を進める」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「日本語や文化が勉強できる場所」を知らせる	外国語で相談できる場所を知らせる	生活に必要な情報を外国語にする	生活に必要な情報をふりがなつきにする	市役所に通訳をおく	子どもの生活をサポートする（日本語や学校のルールを教えるなど）	多言語で気軽に相談できる窓口を増やす	仕事を探す支援をする	入居できる住宅を探す支援をする	地域活動に参加できるような支援をする	日本人市民の多文化理解を進める	その他	無回答
0年～5年	73	38.4	21.9	32.9	28.8	34.2	1.4	28.8	26.0	9.6	15.1	23.3	1.4	2.7
6年～10年	36	27.8	19.4	33.3	22.2	19.4	22.2	25.0	33.3	16.7	19.4	30.6	—	5.6
11年以上	141	19.9	27.0	24.1	27.0	24.8	7.1	22.7	21.3	11.3	10.6	18.4	5.7	19.9

Ⅲ 自由意見

Q 2 5 生活の中で困っていることや君津市に取り組んでほしいことなど、なんでも自由に記載してください。

仕事について

- ・ 高齢者の求人
- ・ 外国人向けの仕事や就職の情報
- ・ 私が日本に来た時と同様に、来日したばかりの留学生の仕事が少ないように思います。

ことばについて

- ・ 気をつかってくれる事にありがとうございます。できれば韓国語をお願いします。ひらがなでも大丈夫ですがわからない文字もあります。それで意味がわからないことがあります。よろしくお願いします。
- ・ 行政に関する書類のみ1人ではできません。やることが3つもあります。①漢字②ひらがな③カタカナ台湾漢字だけ。アパートの契約等は1人でできます。ふりがながないからです。
- ・ 日本語の語学力の低さをアシストしてくれる人（通訳？）を必要としています。そうすれば、私自身で正しい礼儀で、流ちょうにコミュニケーションを図ることができる。正しい文法で、自分自身の思いを伝えることは、日本で暮らすうえで求められる能力だと思います。会話は思慮深く、誠実に思いを表現することが最も大切です。長いことそう思い続けて、勉強に役立つ機器類や教材を買ったけれどもなかなか思うようにいきません。近い将来に私の思いが叶うことを願っています。
- ・ 私の英語力を生かして、日本の子供たちに英語を教える手助けをしたい。最終的にはボランティア英語講師となり、子どもたちの英語の理解力向上を図り、地域への貢献につながるのではないかと思います。今回のアンケートと聞き取りの機会をいただき、感謝いたします。
- ・ 変な英語の使用 (Japalish) my number を (mai namba)、safety driver を (seifuchi doraiba) など
- ・ 漢字読めない。平仮名表記を要望します。

日常生活について

- ・ 光熱費が高い。
- ・ 近所で信号を設置してほしい所がある。車が止まらないから渡れない。君津市人見二丁目 20-20
- ・ 生活の支援をしてほしい。(収入が少ない時に)
- ・ 大勢の人と一緒に住んでいるので、問題がたくさんおきます。大変悩みます。
- ・ 義理の兄が日本人のためわからないことは教えてもらっていますので問題はありません。日本人に頼れない外国人を少しでも手助けしてください。
- ・ 夫が日本人なので困ることはありませんが単身で来日している留学生や会社員は本当に何もかもわからないので優しく対応してください。
- ・ バスがありません。スーパーがありません。
- ・ 居住地とお金 全ての支払いに助けが必要な状況。

- ・国民健康保険と税金でとても困っています。支払いたいのですが、今はできないのです。どうか私の状況を理解してください。よい仕事を見つけたら、必ず債務をお支払いすることを約束します。
- ・車を持っていないので、外出するのが不便です。
- ・私は派遣で仕事をしています。一年間に何か月間働けるかという仕事はありません。いくらぐらい稼ぐことが出来るかわかりません。ですから、住居費は安いのを希望します。そうでないと住居費が支払うことができなくて、急に迷惑をおかけするようなこともあります。どうぞよろしくお願いいたします。政府にご迷惑をかけることを申し訳なく思っています。

子育てについて

- ・君津には越したばかり。すぐに地域に溶け込みたいと思う今一番の心配事は、下の娘がまだ幼稚園に入園できないことです。私と妻が働きに出て家族を支えられるようにするため、早く入園できる場所を見つける必要がある。

防災について

- ・防災無線で流れるメッセージが理解できないことが心配です。先日火事があったけど、防災無線のアナウンスは日本語のみだった。津波警報か何かではないかと思って、本当に怖かった。また、病院への通院や検査の受診、医師との意思疎通を容易にするための情報を知りたい。
- ・地震や津波のような災害が起きた時、日本語による通知だけでなく、ベトナム語など他の言語による通知も必要です。

地域参加について

- ・空き家や空き公共の場所が多く見られます。積極活用出来るようにしてほしい。君津に若い人達が集まれるような、場所を提供し人を呼びこんでほしい。海岸隣接場所は散歩道として整備してほしい。魚協の一部開放も望みます。市の活用化のため何かアイデアを募集し、各費として確保願いたい。
- ・高齢者を対象とした様々な活動の企画、実施。
- ・今はパートナーにたよっているが一人になった時の生活が不安です。
- ・1) 日本で選挙が行われる際に、投票する権利があったらいい。2) 可能なら、外国人のためのイベントに出席／参加したい。
- ・日本のお祭りを体験してみたい。早く疫病が去ってほしい。正常に外出して友達と遊びたい。できることなら恋人探しの行動がしたい。(お見合いの行事が)
- ・一人で生活をしているので不安です。

新型コロナウイルスの影響について

- ・無料PCR検査
- ・収入の減少でお金がない。給付金が欲しい。

市役所への要望

- ・日本国籍取得のため、何か市から支援があるといいと思います。
- ・外国人に対する対応を嫌がらず優しく接してほしい。担当者によっては面倒くさい気持ち伝わってしまいます。

- ・私の唯一の要望は、市役所からの文書の英訳です。日本人の夫がいますが、いつも仕事で忙しく、文書の内容を私に説明してくれません。日本語を勉強したいですが、3歳の娘の世話をする必要があります。子どもを保育園に入園させるため、市役所に行こうとしたけれど、夫が署名はおろか書類を読みさえできず、私は日本語力が不足していて出来ません。子どもによい人生を歩ませたいけれど、日本は生活費がとても高いと思います。アンケートを実施してくれてありがとうございます。
- ・市役所や郵便局、銀行などの公共の場所でコミュニケーションを取る時にベトナム語で相談できること。書類の手続きをする時に、ベトナム語の通訳に助けてもらえること。
- ・在留カード更新に千葉まで行かないといけないから市役所でできるようにしてほしい。
- ・法的サービスにおいて、困難に直面した。運転免許書や居住者カードなど、母国に送付される英文の公的書類に公証人のサービスがあるといいと思う。このサービスに1ページ15,000円がかかるが、インドやほかの国では、大体500円以内で可能である。さらに、翻訳を必要とする場合は、1ページ20,000円がかかる。市役所は、これを解決するために、資金を供給する必要がある。
- ・生活上で特に困った事情はありません。言葉の関係で交流にはまだ多少の不自由がありますが、今、一生懸命、勉強しています。市役所に行ったときにも何名かの通訳士が居るように希望します。そうすれば用事がもう少し順調にすまずことができ、都合が良いです。

その他

- ・12年間日本に住んでいるのに、ビザ1年間しか取れない为什么呢？在留カードも1年しか取れない。
- ・私のように昔の制度で生まれた子供は全て父親の戸籍に入ると言う制度ではなく今みたいに両親どちらかの戸籍を選べたらとつくづく思います。そんな制度がその時代にあったら自分のように成人してから苦しむ事はなかったと思います。私のように20才で家を出ててんてんとしていたら書類を申請する（帰化）事もままならず今日に致っております。※普段は余り不便は感じませんがつくづく選挙のたびにそう思います。
- ・鳥よけの電球が欲しい。
- ・お世話になっています。このような調査を行っていただきありがとうございます。君津市の人口は減っている中で、有難いことに外国人は増えていると思います。1. 人口減は結局、税収減につながることを理解共有2. 市民の流入や移住など人口増に関して市の意向があればその協調3. 受け入れに対して市民の意識変化などと述べさせていただきます。よろしくお願いします。
- ・母国や母国の文化に関する誤った情報がたくさんあるので、日本の人々の誤解を解きたい。日本の人々に母国について教育する機会を持てれば、お互いに誤解を避けて、尊重し合うことができると思う。また、英語で書かれた市の情報が掲載されたチラシなどを受け取りたい。
- ・釣り禁止区域を解除してほしい。そうしたら、また釣りに行くことができ、ストレスを減らせるから。
- ・疫病の影響のもと、仕事が減り、収入も減った。永住権申請のためには、もっと高収入でなければならないということが理解できない。疫病の期間の1年は、収入は300万円前後までにも届かなかった。どうして永住権を申請した人の税金が少なくなるのか、その理由を知りたい。

- ・ コロナが始まる前に君津に来ました。しかし、今回は外国人のための地域組織と連携した活動を探していませんでした。ほかの市に滞在していた時は、熱意をもって地域活動に参加していました。しかしながら、2020-2022は活動しないことを決めたのです。外国人を支援したり、多文化主義を促進するコミュニティ団体や組織の存在は、私たちにとってとても重要で価値があります。どうかこうしたサービスを継続してください。ご支援に感謝いたします。ありがとうございます。

IV 調査のまとめ及び施策提言

1 仕事について

仕事をする上で困ったことは「賃金や労働時間」、「日本語でのコミュニケーション」 (Q8)

就労している方のうち、仕事をする上で困ったことは「賃金（給与、収入）や労働時間などの条件に不満がある」（20.4%）、「日本語でのコミュニケーションができない」（14.1%）が多くなっています。

特に、会社員（派遣社員）では「賃金（給与、収入）や労働時間」に不満がある人が約3割と多くなっています。

施策提言→外国人の雇用・職場定着に関して企業が抱える課題を把握し、課題に応じた支援を実施していくことが必要です。

仕事をしていない理由は「今は、仕事をする必要がない」が約4割 (Q9)

仕事をしていない人が働いていない理由は「今は、仕事をする必要がない」が42.6%と多くなっています。また、「探しているが仕事がない」人は17.0%となっています。

施策提言→中小企業等において外国人を適正かつ円滑に受け入れるための取り組みを促進する必要があります。

2 ことばについて

日本語を読む、書くことがある程度できる人は、それぞれ4割程度 (Q10)

話すことについては、「問題なく話せる」（38.0%）、「ある程度話せる」（37.3%）をあわせて、7割以上の人が日本語を話せる状況です。また、聞くことは、「ある程度聞き取れる」（41.2%）、「問題なく聞き取れる」（38.8%）をあわせて、8割程度の人が日本語を聞き取れていることから、話すこと、聞くことは支障のない人が多いことが伺えます。

また、読むことは、「漢字も含めてある程度読める」人が44.3%、「漢字は読めないが、ひらがなは読める」人が33.3%となっています。また、書くことは、「漢字も含めてある程度書ける」人が40.8%、「漢字は書けないが、ひらがなは書ける」の人が32.9%となっていることから、ひらがなの読み書きができる人が多くなっています。

施策提言→日本語を母語としない外国人を対象に、日常生活に必要な基礎的な日本語を習得する機会を提供することが必要です。

日本語を勉強している人は4割で、勉強方法は独学が多い

(Q11、Q11-1)

現在日本語を勉強している人は全体では 38.0%ですが、会社員の方では 69.6%の人が勉強をしています。

勉強方法は、「一人で勉強している」が 58.8%を占め、独学の人が多くなっています。特に、会社員（派遣社員）では独学の人が 75.0%と多くなっています。

施策提言→日本語や日本社会について勉強したいと思う外国人市民のニーズに応じた多様な場や機会づくりを促進する必要があります。

3 日常生活について

日常生活での困りごとは「市役所窓口での手続き」「仕事のこと」

(Q12)

日常生活での困り事について、「困ったことはない」人が 45.5%と、半数弱の人が困りごとがない状況です。

困りごとの内容では「市役所窓口での手続き」「仕事のこと」が多くなっています。また、在日年数が6年～10年の人では「子育て・教育のこと」で困っている人が 22.2%と多くなっています。

施策提言→日常生活の中で困っていることを的確に把握し、関係機関と協力し、外国人市民のさまざまなニーズに応えられる体制をつくる必要があります。

日常生活で頼りにしている人は「同居家族」が5割以上

(Q13)

日常生活で頼りにしている人は「一緒に住む家族」が 54.5%と多くなっています。また、「日本人の友人・知人」(36.9%)、「同国人の友人・知人」(31.0%) がともに3割以上となっています。

施策提言→地域や行政機関などと外国人住民とのつながりを作りながら外国人住民が地域コミュニティの一員となることが促進されるよう、住民同士のコミュニケーションなどを支援することが必要です。

生活に必要な情報の入手方法は「日本語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌」が半数程度

(Q14)

生活に必要な情報の入手方法は「日本語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌」が全体で 48.2%と半数を占め、特に在日年数が長い人ほど「日本語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌」を利用しています。

在日年数が短い人では「SNS (Facebook、Twitter、LINE)」を利用する人も多くなっています。

施策提言→生活するうえで必要となる情報を手に入れやすくなるよう、SNS 等を活用して多言語で情報提供することが必要です。

4 子育てについて

子育ての困りごとは「情報の少なさ」

(Q15)

18歳以下の子どもを育てる上での困りごとについては、「特に困っていない」が32.4%となっている一方、「子育ての制度やサービスについて、外国語の情報が少ない」が22.5%、「市役所からのお知らせや手紙がわからない」が16.9%となっています。

また、子どもが小学生未満の人では「市役所からのお知らせや手紙がわからない」、「子どもが、日本の学校・保育園・幼稚園に行きたくても行けない」ことで困っている人が多くなっています。

施策提言→日本の子育て・教育制度について、やさしい日本語や多言語での情報提供を充実することが必要です。

学校では「特に困っていない」人が半数

(Q16)

学校での困りごとについては、「特に困っていない」人が50.7%と、半数程度を占めています。

しかし、在日年数が6年～10年の人では「日本での進学や就職が心配」が多くなっています。また、子どもが小学生未満の人では「授業、学校生活のルール、行事などがわからない」人が多くなっています。

施策提言→外国人生徒の高校・大学等進学や就職に向けた進路指導・キャリア教育を実施することが必要です。また、小学校入学前の子どもたちやその保護者が日本の小学校生活の不安を軽減し、楽しい学校生活を送ることができるよう、プレスクールの実施も大切です。

5 防災について

指定避難所を知っている人は半数程度、知らない人は約4割

(Q17)

指定避難所を「知っている」人は51.8%と、半数にとどまっています。

また、在日年数が5年以下と短い方は「知らない」人が5割を超えています。

施策提言→多言語に対応したハザードマップを活用し、自宅・職場の浸水リスクや避難場所、避難のタイミングなどについて周知啓発を行うことが必要です。

災害時に困ることは「どこに避難すればいいかわからない」が約4割**(Q18)**

災害時に困ることは、指定避難所の認知度の低さとあいまって「どこに避難すればいいかわからない」が 38.8%と、約4割をしめています。また、「どこに相談すればいいかわからない」が 27.8%と、災害時にどう行動すべきかわからない人が多くなっていると考えられます。特に、在日年数が5年以下の方では、指定避難場所がわからない人が多くなっています。

施策提言→災害時に困らないよう日々の生活の中で準備しておくことや災害時に確認すべき情報、避難場所の情報などを書いた冊子・マップなどを作成し、配付することが必要です。

防災訓練を知らない人が4割半ば**(Q19)**

防災訓練に参加したことがある人は 12.9%にとどまっており、そもそも「防災訓練があることを知らない」人が 44.3%を占めています。

また、「参加したことはないが、参加してみたい」人は 25.1%を、4人に1人が参加を希望しています。

施策提言→災害についての知識や災害時の対応や方法を学んでもらうため、外国人を対象にした防災訓練を行うことが必要です。また、防災訓練の情報を外国人市民に伝え、参加してくれる外国人市民を増やすことが必要です。

6 地域参加について

地域活動に参加していない人が約6割**(Q20)**

日本人と一緒に地域活動に参加しているかは、「地域の活動には参加していない」が 58.0%を占め、特に在日年数が5年以下の人では参加していない人が 80.8%と多数を占めています。

参加したことがある活動は「PTAなどの学校関係の活動・行事に参加している」、「清掃活動・防犯パトロール・福祉などのボランティア活動に参加している」が多くなっています。

施策提言→多言語で外国人市民に地域活動への参加を呼びかけたり、地域に対して外国人市民の受け入れを促すような支援を行うことが必要です。

地域の日本人と「特に交流したいと思わない」人は2割半ば**(Q21)**

地域の日本人との交流については、「特に交流したいと思わない」は 26.3%にとどまり、多くの人が何らかの交流を希望していることが伺えます。

交流を希望する人では、「日本の文化や習慣を学びたい」が 35.3%、「趣味やスポーツと一緒に楽しみたい」が 26.7%となっています。

施策提言→外国人コミュニティや外国人を支援する団体等と連携し、外国人住民が身近な地域での近隣関係を築くきっかけづくりを支援することが必要です。

君津市国際交流協会(KIES)での業務に興味がある人は約3割

(Q22)

君津市国際交流協会の認知度については、「知らないが、どんなことをしているか興味がある」(33.7%)と「知らないし、興味もない」(23.5%)をあわせると、「知らない」人が57.2%と多くなっています。

もっとも、在日年数が0～5年の人では49.3%の人が君津市国際交流協会(KIES)の業務に興味を持っています。

施策提言→君津市国際交流協会を、外国人と日本人が共に集まり、行政機関や地域などと協働して多文化共生を推進する拠点とし、市民レベルの相互理解の促進や多文化共生の担い手となる人材の育成、意識啓発などの更なる充実を図っていくことが必要です。

7 新型コロナウイルスの影響について

新型コロナウイルスの影響により、困っていることは「いつ収まるか見通しが立たないこと」が5割半ば

(Q23)

新型コロナウイルスの影響により、困っていることは「いつ収まるか見通しが立たないこと」が全体で54.5%と多く、特に無職の方では66.0%と多くなっています。

施策提言→ウェブサイトやSNS等を活用し、やさしい日本語や多言語での情報発信を行い、不安解消に努めることが大切です。

8 市役所への要望

市役所にしてほしいサービスは「生活に必要な情報を外国語にする」「生活に必要な情報をふりがなつきにする」「市役所に通訳をおく」がそれぞれ3割

(Q24)

市役所にしてほしいサービスは「生活に必要な情報を外国語にする」(28.6%)、「生活に必要な情報をふりがなつきにする」(27.5%)、「市役所に通訳をおく」(27.1%)がそれぞれ3割程度となっています。

また、中国籍の方では「日本人市民の多文化理解を進める」が多くなっています。

施策提言→行政情報の翻訳や多言語版パンフレットの作成を行い、通訳・翻訳ツールなどを活用し、市役所における行政サービスの多言語化を図ることが必要です。

